

こどもの意見聴取の概要

「子どもの声を尊重した施策の推進」の取り組みの一環として、令和6年（2024年）5月から7月にかけて、こども施策担当部局と教育委員会が連携し、0歳から39歳までの子ども・若者を対象に、日常生活で感じていることや疑問に思っていること、大人に伝えたいことなどについて、意見を集めました。

意見聴取は、いつでも回答できる方法（常設型）、当事者の子ども・若者が集まる場所へ出向く方法（スポット型）、支援者や保護者などから当事者の声を聴く方法（アドボケイト型）の3つの方法で実施しました。また、意見を積極的に伝えられる子、促されると伝えられる子、伝えることに消極的な子、伝えることが難しい子など、さまざまな当事者から意見を聴くため、ワークショップやWEBページの活用、意見交換など、工夫を凝らして実施しました。

なお、「1. 常設型」「2. スポット型」の意見については、主に小・中学生の意見を抽出して掲載しています。

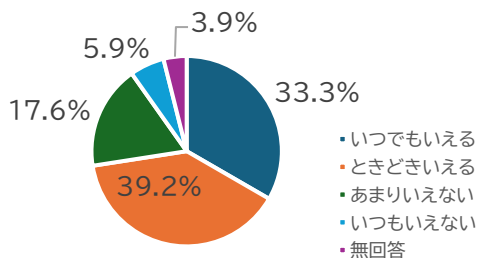
1. 常設型 「みんなのこえ 大募集！！」

WEBページから意見を募集しました。

市政だよりやホームページのほか、就学前施設や市立小中学校等へチラシやポスターを配付し、意見募集の趣旨も周知しました。

回答件数 102件

Q.大人に自分の気持ちをいえるか？



テーマ別の意見のまとめ

「わたしがおとなにおもうこと」

「大人は忙しい」、「仕事が大変そう」、「大人は自由なのに、子どもには自由がありません」などの意見がありました。



➡大人に自分の気持ちをいえるかという問いに対し、「いつでもいえる」・「ときどきいえる」をあわせた「いえる」が約7割、「あまりいえない」・「いつもいえない」をあわせた「いえない」が約2割という結果となりました。

「わたしのこえをきいてもらえたとき」

「お母さんが気持ちを聞いてくれたり、友だちから嫌なことを言われたときに、別の友だちが理解してくれたことが嬉しかった」などの意見がありました。

「わたしのこえをきいてもらえなかったとき」

「習いごとや勉強をやりたいときに、気持ちや意見をきいてもらえないことが、悲しい、つらい」などの意見がありました。

「ふだんのせいかつで「なんでやねん」とおもうこと」

「公園でのボール遊びが禁止されていること」や、学校生活では、「宿題がしんどい」、「授業が面白くない」、「洋式トイレが少ない」などの意見がありました。

2. スポット型 「つたえてみよう みんなのこえ」

市内商業施設や市内活動団体の協力を得て、イベントブースを設け、子ども・若者が想いを伝える企画を行いました。あわせて、子どもの権利を啓発するため、「子どもの権利なんでやねん！すごろく」の体験会も行いました。

また、市内にあるさまざまなこどもの居場所にも意見聴取に協力いただきました。

回答件数 388件

主な意見(要約)

- ・大きくなったら、〇〇になりたい。
- ・公園や遊ぶ場所が増えてほしい。
- ・休み時間が短い。
- ・なぜ、勉強しないといけないの？
- ・もっと外で遊びたい。
- ・きれいな学校にしてほしい。
- ・いつもありがとう。
- ・大人は自分勝手。
- ・おいしい給食をいつもありがとう。
- ・なぜ、制服を着ないといけないの？
- ・思っていることを言ってもわかってもらえない。
- ・おこづかいを増やしてほしい。



3. アドボケート型 「こども・若者の意見聴取・反映に関する意見交換会」

日ごろより当事者に関わっている支援機関から、「子ども・若者が意見を言いやすいように工夫していること」「子どもの権利を守るために必要だと思うこと」などについて意見交換を行いました。

【参加団体(5機関)】

- ・社会的居場所事業わかごぼう
- ・社会福祉法人つむぎ福祉会(若者相談窓口)
- ・八尾隣保館サポートやお ・八尾隣保館ルフレ八尾
- ・八尾市教育センター

主な意見(要約)

- ・子ども・若者は自分の想いを受け入れてもらいたいと考えている。大人の言い方一つで指導と受け取られることもあるので気をつけないといけない。
- ・子ども・若者との信頼関係を構築し、意見を言いやすい環境をつくるためには、まず共感と傾聴の姿勢を持ち、否定はせず、時間をかけながら、相手の話に共感しながら傾聴することが重要。
- ・保護者や教員等の大人が子どもの権利について理解し、守ることが重要。
- ・子ども・若者が意見を言いやすい環境づくりが、子どもの権利を守るために重要。

